

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
期末棚卸資産は最終仕入原価法による原価法によっている。
- (2) 固定資産の評価基準及び評価方法
什器備品は定率法による減価償却を実施している。
- (3) 引当金の計上基準
退職給付引当金は期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。
- (4) リース取引の処理方法
所有権移転外ファイナンスリース取引については、通常の賃貸借取引に準じた方法によっている。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税は税込方式により行っている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位 円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産 ・ 土 地	3,052,280	0	0	3,052,280
小 計	3,052,280	0	0	3,052,280
特定資産 ・ 退職給付引当 資産	8,465,000	480,000	2,296,000	6,649,000
小 計	8,465,000	480,000	2,296,000	6,649,000
合 計	11,517,280	480,000	2,296,000	9,701,280

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位 円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産 ・ 土 地	3,052,280	0	(3,052,280)	
小 計	3,052,280	0	(3,052,280)	
特定資産 ・ 退職給付引当 資産	6,649,000	0	(6,649,000)	(6,649,000)
小 計	6,649,000	0	(6,649,000)	(6,649,000)
合 計	9,701,280	0	(9,701,280)	(6,649,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び期末残高は、次のとおりである。

(単位 円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器及び備品 (会計管理システム設 計・構築・移行ほか)	12,162,257	10,714,152	1,448,105

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位 円)

補助金等の名 称	交付者	前期末 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期末 残高	貸借対照表上 の記載区分
助成金						
「小さな親切」誌 の発行	(一財)日 本宝くじ協 会	0	9,396,000	9,396,000	0	
青少年のすこや かな成長をはぐ くむ活動助成金	(公財)JKA	0	1,499,420	1,499,420	0	
合 計		0	10,895,420	10,895,420	0	